

足立工科高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 公民 科目 公共

教科： 公民 科目： 公共 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： (1～4組：岡戸)

使用教科書： ( 高等学校 新公共(第一学習社) )

教科 公民 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標： 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
・オリエンテーション ・都道府県の確認						1
A 公共的な空間をつくる私たち 【知識及び技能】 ・青年期について基本的な知識を身に付けることができる。 ・伝統や文化、社会とのかかわりについて基本的な知識を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現代の生活の中で伝統文化に由来するものにはどのようなものがあるかあげることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自らのキャリア形成について考察することができる。	・ワークシート ・Formsを活用した課題 ・一人1台端末を活用した課題 等	【知識・技能】 ・人生において青年期がもつ意味や役割を理解している。 ・伝統や文化とは何かを理解している。 【思考・判断・表現】 ・自律的な意志とは何かについて多面的・多角的に考察し、説明している。 ・伝統や文化とみずからの行動様式や価値観との関係について多面的・多角的に考察し、説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社会の一員として、キャリアや公共的な空間について、現代社会に見られる課題の解決を視野に関わろうとしている。	○	○	○	4
B 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 【知識及び技能】 ・生命倫理の基本的な知識を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地球で起きている様々な環境問題を探求することができる。	・ワークシート ・Formsを活用した課題 ・一人1台端末を活用した課題 等	【知識・技能】 ・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方を理解している。 【思考・判断・表現】 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方について多面的・多角的に考察し、説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間と社会のあり方について、選択・判断の	○	○	○	2
定期考査			○	○		1
C 公共的な空間における基本的原理 【知識及び技能】 ・法の支配や基本的人権の基本的な知識を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本国憲法が最高法規である理由を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・公共的な空間における課題を主体的に考察することができる。	・ワークシート ・Formsを活用した課題 ・一人1台端末を活用した課題 等	【知識・技能】 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重とは何かを十分に理解している。 【思考・判断・表現】 ・日本国憲法が最高法規である理由を十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・民主主義、法の支配の視点から、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	4
D 法的な主体となる私たち 【知識及び技能】 ・法の種類と法の機能の基本的な知識を身に付けることができる。 ・契約自由の原則や消費者問題の基本的な知識を身に付けることができる。 ・裁判所の役割や裁判員制度の基本的な知識を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・社会的課題を解決するために法がどのように活用されているか考察することができる。 ・消費者として必要な行動を考察することができる。 ・国民が司法参加する意義について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールを守ることの意義を主体的に考えることができる。 ・自立した消費者の行動を考察することができる。 ・主権者として司法に関心を持つことができる。	・ワークシート ・Formsを活用した課題 ・一人1台端末を活用した課題 等	【知識・技能】 ・法の役割や、法が日常生活に密接に関連していることについて理解している。 ・契約自由の原則や、成年年齢の意味、成年の責任について理解している。 ・裁判所の役割や裁判員制度について理解している。 【思考・判断・表現】 ・法が公正であるための条件について多面的・多角的に考察し、説明している。 ・消費者市民社会において私たちには何ができるかを多面的・多角的に考察し、説明している。 ・国民の司法参加の意義について多面的・多角的に考察し、説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・基本的人権と法の関わり方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。 ・18歳成年をふまえて、契約に関する知識や問題を身近なこととして捉えて主体的に考えようとしている。 ・司法参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1

